

## 1 死んだ後

お棺の蓋の四枚板が  
死者の<sup>うら</sup>憾みを聞きました

最初の<sup>うら</sup>憾みは口のこと  
墓土にまみれ ひどく渴いているのです

次の<sup>うら</sup>憾みは顔のこと 5  
神が創り損なったように醜いのです

次の<sup>うら</sup>憾みは両手のこと  
二本の<sup>かたびらひも</sup>帷子紐で縛られているのです

次の<sup>うら</sup>憾みは脚のこと 10  
<sup>きょうかたびら</sup>経帷子で巻かれているのです

「わたしは生前 金貨も銀貨も持っていた  
名声は太陽のように輝いていた

わたしは生前 緑の服も赤の服も持っていた  
頭には金の冠が載っていた

でも今や 口に入る肉はなく 15  
蛆虫のように暮らすだけ

髪に金の冠はなく  
<sup>めしい</sup>盲のように暮らすだけ

生きていた頃 四肢は力に溢れていた  
でも今や 一步も動けない 20

生きていた頃 脇腹は情欲に燃えていた  
でも今や 干涸びて埃をかぶっている」

一枚目の板が言いました 「肉とパンはどちらがうまい」	
二枚目の板が言いました 「ワインと蜂蜜とどちらが甘い」	25
三枚目の板が言いました 「黄金は少女の金髪に値するのか」	
四枚目の板が答えました 「われらにとっては同じこと」	30
死者が四枚板に聞きました 「緑の大地は戦火で赤茶けてしまったか 息子は斬られて獣の餌食となったのか 妻の身体も獣の餌食となったのか	
侍女は真鍮鍋で煮られたのか 小姓は絞首台に吊るされたのか」	35
四枚板は言いました 「おまえには浅ましいことに思えよう おまえの妻は金のベッドを手に入れた シーツは赤い縁取り入り	40
おまえの息子は絹の服を手に入れた 袖はヨーグルトのように柔らかい おまえの侍女は新しいガウンを手に入れた スカートには青いリボン付き	
おまえの小姓は指輪と手袋を手に入れた 見るもみごとな品物だ」	45
死者は答えて言いました	

「どんなにりっぱな贈り物を神は私にくださるだろう」

四枚板はすぐに答えて言いました

「地獄の蛆虫を養う肉」

50

(中島久代訳)